

重点項目	学年・部・委員会	具体的取り組み	評価基準			
			4	3	2	1
学力の向上による進路保障 (①授業力の向上②生徒の学力の向上③生徒の自己実現に向けた進路支援)	1学年	家庭学習を習慣づける教科担当者連携をとり、予復習の徹底を図る。	1 予復習が確実にでき、課題提出が期日までにできている。	何名か期日には遅れるが、確実に課題提出が行われている。	何名かの生徒が期日に遅れ、特定の生徒の課題がどうしても出ない。	期日に課題提出することが困難である。
			2 小テストの合格率が90%以上である。	小テストの合格率が80%ぐらいである。	小テストの合格率が60%ぐらいである。	小テストの合格率が60%に満たない。
	2学年	進路実現のための的確な情報提供を行うとともに面談の質の向上を図る。	3 個々の生徒に応じた的確な進路情報を提供し、面談の質も向上した。	個々の生徒に応じた進路情報を提供し、面談の内容が改善された。	一般的な進路情報を提供し、面談の内容がほぼ改善された。	個々の生徒に応じた進路情報を提供できず、面談の内容が改善されなかった。
	3学年	自己実現のための進路支援 個々の進路実現に相応しい学力把握、実態把握、学習計画の指導	4 個々の学力・適性を把握をした上で十分な学習指導ができたが効果があつた	個々の学力・適性を把握をし十分な学習指導ができたが効果については、更に工夫を要する	個々の学力・適性の把握はできたが学習指導を更にする必要があつた	個々の学力・適性の把握が不十分で学習指導も更にする必要があつた
	教務	研究授業を行い、批評しあうことで、教科指導力の向上を図る。 生徒の学力を向上させるために、常に教材研究や研修に努め、授業改善を試みる。	5 各教科で学期に1回研究授業が行えた。	各教科で年間に1回研究授業が行えた。	一部の教科で研究授業を実施できなかった。	研究授業を実施することができなかった。
			6 教材研究の為に研修会などに積極的に参加し授業改善ができて、生徒の学力向上につながった。	教材研究の為に研修会などに参加し授業改善がほほでき、生徒の学力向上が期待できる。	教材研究に努め、授業改善の見通しがついた。	新しい教材開発もせず、旧態依然とした授業であつた。
	進路指導	国公立大学入試に対応した進路指導の体制を強化する 1) 生徒の学力・進路意識の実態について、職員の共通理解をはかる手立てを実施する。 2) 発展的内容の補習の計画的実施を促進する。 3) 進路指導委員会(検討会)の充実をはかり、きめ細かな進路指導に役立てる。	7 1)定期的に生徒の学力や進路意識を調査し、進路研修会や部会を通して学力・進路意識の状況を的確に伝えている	1)年間1回は生徒の実態を研修会・部会を通して伝えている。	1)生徒の学力・進路意識の実態を不十分ながらも部分的に伝えている。	1)生徒の学力・進路意識の実態を伝える機会を作っていない。
			8 2)全学年、年間を通してレベルの高い充実した内容の補習が実践でき、生徒の進路実現に役立った。	2)学年、時期にムラがあるものの、年間の中で発展的補習が実践されてきた。	2)内容や時期には不十分な点があるが、補習計画を立てて実践してきた。	2)補習が場当たりに計画され、内容においても不十分な点が多かった。
			9 3)従来の進路指導委員会を見直し、目的・時期・内容共に充実したものが複数回行われた。	3)従来の進路指導委員会の見直しが行われた。	3)従来の進路指導委員会の見直しは為されたが、改善がほとんど行われずに会が行われた。	3)従来の進路指導委員会の見直しも不十分で、改善も為されなかった。
	図書情報	図書館だよりを毎月1回発行し、生徒の読書に対する意欲を高める。	10 月1回の発行で、生徒の読書意欲を大いに高めることができた。	学期に2回程度は発行し、生徒の読書意欲を高めた。	学期に1回発行できた。	ほとんど発行できなかった。
	SSH推進	学校設定科目「科学・技術・社会」「科学英語」や理数科目の授業内容の充実 「自然科学探究」における課題研究の充実と発表会の実施 評価アンケート集計による理数科目に対する興味・意欲の分析とアンケート結果のフィードバック	11 充実した内容で実施でき、新たな教材開発ができた。	実施により、一部で新たな教材開発ができた。	実施により、新たな教材開発がほとんどできなかった。	実施により、新たな教材開発が全くできなかった。
			12 1年・2年ともすべての班で課題研究の発表ができた。	2年は全部、1年は半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半分以上の班で課題研究の発表ができた。
			13 評価集計により、SSH事業実施による効果が十分に認められた。	SSH事業実施による効果がやや認められた。	SSH事業実施による効果あまり認められなかった。	SSH事業実施による効果がほとんど認められなかった。

重点項目	学年・部・委員会	具体的取り組み	評価基準				
			4	3	2	1	
豊かな人間性を持った生徒の育成 (①規律ある態度の育成②地域貢献や就業体験の充実③人権教育の充実)	1学年	公共心の育成 ・言葉遣い ・掃除	14	挨拶がよくできており、忠告を聞く態度がよく、学んだことを反映させて会話できる。	どの生徒にも、全ての教師が正しい言語活動を指導できている。	言語活動の指導にむらがある。	正しい言語活動の指導がなかなかできない。
			15	不特定多数が利用するものを自分のこととして、指導無しで隅々まで掃除ができています。	前向きな姿勢で掃除に取り組み、適切に指導できている。	集合や清掃方法について注意を要するときがときどきある。	集合や清掃方法について常に注意が必要である。
	2学年	クラス役員、日番などの役割をしっかりと自覚させ、自主的なクラス運営が出来るようにする。 生徒会執行部を学年の生徒がしっかりと支え、自治意識を高める。 事前指導を徹底し、修学旅行を、修学旅行委員を中心に運営させて、「教師が指示を出さない修学旅行」として成功させる。	16	自主的なクラス運営ができた。	自主的なクラス運営が概ねできた。	自主的なクラス運営がクラスによりばらつきがあった。	自主的なクラス運営ができなかった。
			17	生徒会活動に積極的に参加し自治意識が高まった。	生徒会活動に積極的に参加し自治意識がほぼ高まった。	生徒会活動に積極的に参加する生徒としない生徒がはっきり分かれていた。	生徒会活動に積極的に参加しなかった。
			18	教師が指示を出さずに生徒の自覚ある行動で修学旅行は成功した。	教師が指示を出さずに生徒の自覚ある行動で概ね成功した。	教師が指示を出さずに生徒の自覚ある行動がとれる生徒ととれない生徒との差があった。	教師が指示を出さないと、生徒の自覚ある行動ができなかった。
	3学年	社会人になるにあたり人権学習で以下に取り組む 1)就職時における人権意識の育成 2)DVについての理解と社会性の育成	19	2つの内容についてほぼ全員に十分な理解をさせることができた	2つの内容についてほぼ十分な理解をさせることができた	十分な理解をさせることができたが一部において更に深く行う必要がある	2つの内容について十分に理解をさせることができたとはいえない
	総務	「整美」意識の高揚と清掃の徹底	20	日頃から高い意識を持ち、意欲的に校内美化に取り組んだ	割り当てられた清掃当番等、その責務は果たした	清掃等強制しないと取り組みない	意識を持たず、整備等も全くできない
	教務	規律のある学校生活に向けて、授業時間を確保できるよう検討する。	21	来年度に向けて具体策が決定した。	具体的な方向が検討できた。	検討することができた。	現状を変えることができなかった。
	生徒指導	遅刻指導の徹底 地域貢献事業の充実を図る。	22	遅刻者0が年間50日以上あった。	1日の遅刻者が5人以下の日が年間50日以上あった。	1日の遅刻者が10人以上の日が年間50日以上あった。	1日の遅刻者が15人以上の日が年間50日以上あった。
			23	地域のためにいろんな事柄を計画し実施できた。	地域の依頼については実施できた。	地域の依頼については時々できた。	地域の依頼等については、ほとんど実施できなかった。
	図書情報	生徒会(図書委員会)との連携を密にし、生徒が主体となる委員会活動を展開する。活動の重点は文化祭、読書会、朗読会、図書館作り作成、一斉読書などとする。	24	すべての行事において、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事で、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事はこなしたが、生徒の主体的活動の場が少なかった。	行事が成り立たず、生徒の活動も乏しかった。
	保健	キャンパスカウンセラーとの連携を図り心身に健康な生徒の育成を図る。 生徒保健委員会活動を活性化し、保健だより等を通じて生徒の健康に対する意識を高める。	25	年間11回行われているカウンセリングは、カウンセラーとの連携が図られており、十分な効果が得られている。	カウンセラーとの連携は図られているが、回数や時間の確保が不十分で生徒へのアドバイスが十分できていない。	カウンセラーとの連携が不十分で、しかも十分な効果が得られていない。	教育相談体制が整っていない。
			26	定期的に保健だよりを発行し、生徒の健康に対する意識を高めることができた。	定期的に保健だよりを発行しているが、生徒の健康への意識は十分高まっていない。	保健だよりを生徒が読んでいないため健康に対する意識も低い。	生徒保健委員会の活動ができていない。
	SSH推進	海外研修や国内研修の実施 各種オリンピック・理数甲子園への参加	27	研修計画がすべて実施でき、研修内容も含め十分な目的を達した。生徒の進路決定の補助としての役割が十分に達成された。	研修計画がすべて実施できたが、一部研修内容に不十分な点があった。生徒の進路決定の補助としての役割が一部達成された。	計画が一部実施できなかった。生徒の進路決定の補助として役割が不十分であった。	計画がほとんど実施できなかった。生徒の進路決定の補助に全くなかった。
			28	オリンピック・理数甲子園の参加で、上位入賞を果たした。	オリンピック・理数甲子園の参加で、一部入賞を果たした。	オリンピック・理数甲子園に参加したが入賞ができなかった。	オリンピック・理数甲子園に参加できなかった。
心の教育委員会	職員研修会と生徒向講演会の精選と充実を図る	29	職員の指導力向上と生徒の人権意識の高揚につながる的確なテーマを選択し、会の運営ができた。	職員の指導力向上と生徒の人権意識の高揚につながる会の運営ができた。	テーマの選択、講師依頼のどちらかが不適切であった。	テーマと講師の選択を誤り、あまり実のない会になった。	

重点項目	学年・部・委員会	具体的取り組み	評価基準			
			4	3	2	1
地域に信頼される学校づくり(①情報発信の手段と内容の充実②教職員の意識の高揚③地域との連携)	1学年	保護者目線で、学年運営を考える。	30 保護者からの情報を得て、学年通信、保護者会、三者面談等で学校の方針をしっかりと保護者に示し、円滑に学年運営ができています。	学年通信を月に1回は発行するなど多くの保護者に情報を発信し、保護者からの意見を徴集できている。	情報発信はしているが、保護者の関心が得られていない。	情報発信があまりできていない。
	2学年	保護者との懇談会や学年通信、学級通信などを活用し、常に保護者との連携を図りながら、学年運営を行う。	31 常に保護者との連携を密接に図りながら、円滑に学年運営ができた。	保護者との連携を図りながら、学年運営ができた。	保護者との連携は十分できなかったが、学年運営は概ねできた。	保護者との連携が十分に行われず、学年運営にも支障を来した。
	3学年	保護者と懇談会や面談を通じて生徒の進路に関して十分な情報交換をして進路実現に反映させる	32 十分な情報交換ができ進路実現に反映させることができた	十分な情報交換ができ進路実現にほぼ反映できている	情報交換ができたが進路実現に十分反映できていないところもある	情報交換が不十分で進路実現に十分反映できていない
	総務	家庭・地域との情報共有	33 互いに情報交換でき、行事等は周知徹底できた。	行事等はほぼ周知できた	行事等は半分程度しか周知できていない	全く周知できていない
	教務	教職員、地域の方々へ公開授業を行う。	34 地域の方への公開ができた。	すべての職員が授業見学した。	一部の教科で実施した。	まったくできなかった。
	生徒指導	通学指導	35 周囲に配慮し、自己の安全を図り通学できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有し、クラスで温度差なく指導できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有しているが、クラスにより温度差があり指導が統一できていない。	苦情や事故に対して学年で情報を共有できていない。
		生徒会活動・部活動等の情報をホームページで発信する	36 たえず情報を発信できた。	学期に一度は発信できた。	年に一度は発信できた。	発信できなかった。
	進路指導	進路情報の発信 1)進路通信の定期的な発行とその充実をはかる。 2)進路資料室のPC環境の充実により、生徒の自主的な進路情報入手の支援をする。	37 1)月1回の発行により、全学年生徒に役立つ情報の提供が継続された。	1)やや不定期な発行になったが、全学年の生徒に概ね役立つ内容のものであった。	1)不定期な発行で内容も学年に偏りがあるものになった。	1)不定期な発行で、内容も進路情報としては適切ではないものに終始した。
			38 2)PC環境を十分に整え、各生徒が自由に進路資料閲覧ができるシステムを構築することが出来た。	2)やや不十分なシステムではあるが、概ねPC環境が整い、生徒の資料閲覧に役立った。	2)PC環境はほぼ整ったが、一部の閲覧システムだけを構築することしかできなかった。	2)PC環境を整えることができず、システム作りも達成できず、従来の方法での資料閲覧のままであった。
	図書情報	近隣の公立図書館との連携を深める	39 連携を大いに図れた	連携を図れた	ほとんど連携を図れなかった	全く連携を図れなかった
	保健	校内救急体制を確立し、全職員に周知徹底を図り、緊急時の対応ができる。	40 職員全員が十分周知し、対応ができる。	救急体制が確立されているが、職員の対応が十分でない。	救急体制は確立されているが、職員の周知がなされていない。	救急体制が不十分で整備の必要がある。
	SSH推進	SSH通信の発行とホームページによる情報発信	41 月2回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	月1回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	SSH通信の発行ができたが、月1回以下の発行であった。	SSH通信の発行ができなかった。
		親子サイエンス教室において、コース生徒と地域の連携を図る。	42 サイエンス教室が実施でき、事後アンケートでの参加者の9割以上で評価が高かった。	サイエンス教室が実施できたが、事後アンケートで、参加者の高評価は6~8割であった。	サイエンス教室が実施できたが、予定人数に達しなかった。または、アンケートで参加者の高評価は6割未満であった。	サイエンス教室が実施できなかった。
	心の教育委員会	高丘地人協、明人教、東人教、東高人教など地域の人権教育協議会との連携を密なものにする。	43 各協議会に積極的に参加し、連携を大いに深められた。	各協議会に参加し、連携を深められた。	各協議会には参加したが、あまり連携がとれなかった。	協議会への参加も少なく、連携がとれなかった。